

令和5年度 第1回太宰府市観光推進基本計画策定協議会 会議録

1 開会及び閉会に関する事項

- 1 日 時 令和5年7月26日(水)
15時00分 開会
16時30分 閉会
- 2 場 所 太宰府市役所 庁議室

2 出席委員の氏名(18名)

会 長	竹川 克幸
副会長	大江 英夫
委 員	寺田 正典
委 員	高田 由美子
委 員	高山 博子
委 員	野田 智子
委 員	菊武 良一
委 員	実藤 裕久
委 員	草場 康文
委 員	松尾 俊裕
委 員	菊本 亮
委 員	河野 圭治
委 員	平田 隆幸
委 員	松澤 尚史
委 員	富永 誠治
委 員	古賀 正之
委 員	井手 麻由美
委 員	簾内 彩佳

3 欠席委員の氏名(2名)

委 員	富田 慎志
委 員	吉田 憲和

4 委員を除き会議に出席したものの職・氏名

太宰府市

太宰府市長	楠田 大蔵
観光経済部長	友添 浩一
観光推進係長	田上 真也
観光推進係	長井 琢哉
観光推進係	伊藤 裕貴
総務部理事	轟 貴之

株式会社 Quick Connect

代表取締役社長	姜 来秀
---------	------

株式会社サーベイリサーチセンター

九州事務所主管研究員	堤 彰子
企画課長	伊東 巧
企画課担当	下村 直輝

5 協議会次第

1. 委嘱状交付
2. 市長挨拶
3. 委員自己紹介
4. 会長、副会長の選出
5. 第二次太宰府市観光推進基本計画策定方針について
6. 策定業務の全体像及び進行スケジュールについて
7. 実施する基礎調査について
 - (1) 日本人観光客調査
 - (2) 外国人観光客調査
8. その他

6 内容

○事務局

(開会挨拶)

(市長より委嘱状交付)

○楠田市長

平成 31 年 3 月に、太宰府観光の課題である通過型観光から脱却し、中長期滞在型観光を実現するため、「大太宰府観光への挑戦」という副題を付け、本市にとって初めての観光推進基本計画を策定いたしました。

しかしながら、その直後、全く予期せぬ形で「令和」のご縁をいただき、さらに「新型コロナウイルス」の影響もありました。それらを踏まえ、令和 3 年 4 月に計画の追加・変更を行いました。コロナ禍の最中でしたので、実際の観光推進が出来ていない面もありました。また、この期間に観光のオンライン化や新型コロナウイルスの 5 類移行などの変化が起き、コロナ前とは太宰府を取り巻く環境も変わってまいりました。

計画の策定方針については、後ほど詳しい説明もありますが、「令和の都だざいふ」として、過去の歴史と文化だけではなく、現在や未来の太宰府も含めた魅力づくりができるようにと考えております。加えまして、持続可能性、住んでいる方も幸せになれる観光を作っていく必要があります。そのためには、文化財の計画でも掲げていますが、経済税収効果が高まり、住んでいる方にも還元されるような観光とすることで市民の方の理解を得ていきたく考えます。

これらの様々な観点も含めて、現場におられる皆様や若い世代の皆様の活発なご意見をいただきながら、より良い観光推進基本計画にできればと思っております。どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

○事務局

それでは、各委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと存じます。

○委員全員

(各自自己紹介)

○事務局

ありがとうございます。それでは、会長、副会長の選出に入らせていただきます。太宰府市観光推進基本計画策定協議会規則第 5 条の規定より、各 1 名の互選となりますので、事務局から提案をさせていただきます。会長に日本経済大学教授の竹川委員、副会長に前計画策定時に会長を務めていただきました大江委員を提案させていただきます。皆様、ご意見等ございますでしょうか。

○委員全員
(拍手)

○事務局

ありがとうございます。それでは、会長に竹川委員、副会長に大江委員ということで決定いたしました。就任にあたりまして、竹川会長、大江副会長よりご挨拶をいただきたく存じます。

○竹川会長

この度、会長職を拝命しました日本経済大学の竹川です。両親ともに太宰府周辺の観光に関する仕事をする等、太宰府には様々なご縁で住んでおります。この会議を通じて、太宰府を訪れる人が遊んだり学んだり少しでも楽しめるような観光地を考えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

○大江副会長

太宰府は福岡県のみならず九州全体にとっても大変重要な観光地であります。先の説明にもありました通り、前回の計画がコロナの影響もあり、きちんと有効にできなかった部分もあります。第二次計画に関しましては、皆様と一緒にさらに良いものと思いたいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

どうもありがとうございました。それでは、次第の5「第二次太宰府市観光推進基本計画策定方針」につきまして、事務局から説明をさせていただきます。以降の司会進行は竹川会長にお願いしたいと思います。

○竹川会長

ありがとうございます。ではまず、太宰府観光の現状を踏まえまして次期計画の策定方針につきまして、事務局の方から説明をお願いします。

○事務局

(資料説明)

○竹川会長

ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明について、ご質問・ご意見等ありましたら、ご発言のほどお願いします。

○委員

3 ページ目の消費単価について、3 万円以上の方が何について消費したか分かっているならば教えていただきたいです。おそらく宿泊費だとは思われますが。

○事務局

この資料とは別に、それぞれの内訳に関連して確認しているアンケートもありますが、その結果を確認すると、やはり宿泊をされている方の消費単価が高いという結果となっております。特にホテルカルティアなどのグレードの高いホテルに宿泊された方は単価が高いという結果となっております。

○委員

5 ページ目についてです。消費額を上げるのには賛同しますが、滞在時間が延びるから消費額が増えるという面もありますので、滞在時間を増やさずに消費額を増やすという記載には違和感があります。

また、この計画の期間はどう考えていますか。

○事務局

計画期間は今のところ 5 年で考えておりますが、こちらにつきましても検討の対象としております。

○委員

DMO についても、ただ設立するだけではなく、どのような体制で何を目的にやっていくのかが大事だと思います。また、計画の期間によって、取り組みの内容やどこまで目指すのかが変わってきますので、そこについても考えるべきだと思います。

○事務局

その期間の中でどのように進めていくかのスケジュールについて、計画書の中に併せて記載することで、進捗を押さえていけるかなと思います。ありがとうございます。

○竹川会長

滞在時間という問題については、今後協議会が進んでいくにつれ、色々な議論が深まっていく議題の一つになるかと思われます。ありがとうございます。その他にありますか。

○委員

観光 DMO については、これから議論していけば良いことですが、私は各地の観光地から「DMO 設立から 5 年経ち、国等からの交付金が切れ、財源の確保に難航している」という旨の相談を多く受けています。工夫している事例としては、ふるさと納税を活用して財源を確保していますが、なかなか上手くいっていない団体もあります。先進的な例としては、DMO が観光地のロープウェイや駐車場などの指定管理者となることで、自走のための財源

を確保できたという例もあります。そのため、太宰府市についても DMO の基盤とさせるべき事業を検討した方が良いかと考えます。

○竹川会長

貴重なご意見ありがとうございます。DMO の財源が切れたという他のところの事例では、ベースとして観光協会があったり、クラウドファンディングを含む財団的なもので守ったりしていくという動きが大切かと考えます。あと、人材を作っていくことも太宰府ではこれから力を入れていくべきかと思われます。

○委員

私も様々な自治体に邪魔しておりまして、滞在時間や観光消費を問われることが多いのですが、プラスで言われることが多いのが、域内調達についてです。そういった観点は今回何かご検討される予定でしょうか。

○事務局

現在は域内調達をこちらの資料において計画策定の要素として入れていないですが、総合戦略には入れていますので、観光についてもそういった観点を追加できるか検討したいと思います。

○委員

私も色々な地域でこういう会議に参加しておりまして、計画策定に関連して「脱炭素」や「デジタル」という要素が書かれていないものは初めて見ました。そのような要素がないと修学旅行が入ってこないし、富裕層が環境に配慮した宿泊施設に高い料金で宿泊したりしているという話も出てきているので、計画に記載しないならその理由を明記するべきかと思いました。

○事務局

こちらについては、「日本版持続可能な観光ガイドライン」の内容を踏まえ、計画の各施策がどの項目に対応しているかを明記する予定です。

○竹川会長

サステナブルな観光については、上位計画との連動を踏まえ、太宰府で従来から続けてきた伝統などと新たな要素が上手く繋がっていくようなものを計画に含めていければと思います。

他にご意見等がありますか。また次のステップでお気付きの点があればよろしく願います。

それでは、計画策定の全体像と進行スケジュールについて、計画の策定支援業務を委託しているサーベイリサーチセンターから説明をお願いします。

○サーベイリサーチセンター

(会社概要の説明)

(資料説明)

○竹川会長

ありがとうございました。ただいまの説明内容について委員の皆様から何かございますか。

○委員

参道で商売する上での一つ大きな要素というのが、中国本土からの団体旅行、特にクルーズ船からの来訪客です。現在はコロナの影響でクルーズ船はテスト的に再開しているという情報までしかないですが、計画を作成する上では、このクルーズ船からの来訪客数を組み込まないと、せっかく調査しても分析を誤ってしまうのではないかと懸念しています。

○委員

クルーズ船は今年の5月末から試験クルーズとして1千人規模のクルーズ船が博多港に寄港している状況で、来年の春まではこの状況が続く見込みです。船会社が発表している情報では、来年の春以降にはコロナ前のような3~4千人規模のクルーズ船の運航が再開することです。現時点では、博多港は来年1月~12月の1年間で251隻の船が寄港を予定しており、そのうちの7割程度が中国発着のクルーズ船です。

クルーズ船の状況は逐一変わっていきますが、それでも来年は少なくとも150隻以上のクルーズ船が博多港に来て、そのうちの大部分が太宰府天満宮に行くと思われています。

○竹川会長

貴重な情報ありがとうございます。クルーズ船の状況も踏まえて計画を策定していきます。また、追加で情報が入りましたら適宜この協議会の場で共有いただければと思います。

その他に何もないければ、私の方から1点要望をお伝えします。今後の協議会の在り方にも関わりますが、これだけ沢山の方に委員として参加していただいているので、4回の協議会の場合だけでは皆様の意見を拾い切れなと思います。それを踏まえ、別途アンケートなどで皆様の意見を聞きたいと考えています。また、もし可能でしたら、市役所の職員の方からもヒアリングやアンケートなどでご意見をお伺いできればと考えています。

併せて、これは我々が努力しますが、太宰府には5大学ありますので、留学生の意見も含めて大学でも意見を集めることができればと考えています。

○楠田市長

市内の学生や市の若手職員から意見を聞き出したいですね。

○竹川会長

これからの未来の視点ということで若い人からも意見を拾い上げることができればと思います。

では、次の議題に進みたいと思います。計画策定においてアンケート調査の実施を予定しております。まずは日本人観光客向けの調査について、サーベイリサーチセンターよりご説明をお願いします。

○サーベイリサーチセンター

(資料説明)

○竹川会長

ありがとうございました。ただいまの説明内容について委員の皆様から何かございますか。

○委員

3 ページ目の聞き取りアンケート調査についてですが、このアンケートを実施した後に何をしたいのかというところに疑問があります。目的の一つにプロモーション推進と記載がありますが、太宰府には一般的なプロモーションが必要でしょうか。オーバーツーリズムなどが問題視される中で、このアンケートの調査結果をどのように活用する予定でしょうか。

既に来ている人達の消費額を伸ばしていくことを課題にしているなら、そのためには何をしたらよいのか、来ている人たちの抱えている不満や、滞在時間や消費額を増やすにはどのようなコンテンツがあればいいかというような内容を聞き出すアンケートにされた方がよいかと思います。

○サーベイリサーチセンター

本計画では観光消費額単価、リピート率、総合満足度を KPI として設定する予定です。まず、このアンケートの実施目的の一つとして、これらの KPI 測定のための基礎データの収集がございました。

また、観光プロモーションの推進については、事務局からも説明がありました通り、太宰府市は太宰府駅から太宰府天満宮までの参道エリアが基本的に観光客の集中しているところとなっております。ただ、実際には太宰府市内には、政庁跡や観世音寺、戒壇院などの、天満宮エリアより西側にも史跡や観光スポットが多くあり、本計画ではそれらの観光スポットも含めた観光客の回遊性の向上が重要な要素であると捉えております。この聞き取りアンケート調査では、天満宮以外の観光スポットを訪れる観光客の属性等の実態を拾い上げることで、太宰府天満宮以外の観光スポットの観光プロモーションに繋がられる結果を得られると見込んでおります。その他に、太宰府市への訪問目的や訪問時に参考にしたメディアなどの設問の結果を用いることで、どのような人がどのような観光をしたりどのように消費をしたりしているかということを把握し、計画策定に活用したいと考えております。

○委員

プロモーションが必要かどうかについては、福岡市から太宰府市へのアクセスについては、乗り換えが必要な事や特急列車に時間ぴったりで乗れないと 30 分を超える等の課題もあり、実際に福岡市にビジネスで来た人から太宰府市は遠いから行かなかった等の声を聞いたこともありますので、そういった人達にはまだ訴えかける余地があるのかなと思います。

また、現在は観光消費のニーズが変わりつつあるように感じられ、年配者の消費額単価が高い傾向にある一方、若年者では低い傾向があります。アンケートでそのような点が把握できると、参道の店としても観光客に対してどのように訴えかければ良いか見えてくるだろうと思います。

また、オーバーツーリズムの問題は時期による影響が大きく、11 月や正月のように観光の盛り上がる時期とそうではない時期があることを踏まえると、1 年間の中で移り変わりを捉えるのが最も良いのではないかと考えます。

○委員

同じく調査時期については疑問があります。4 ページ目の Instagram ハッシュタグ分析の分析対象期間である 5 月 8 日～7 月 9 日はオーバーツーリズムが関係ないくらいの閑散期です。また、3 ページ目の聞き取りアンケートの調査期間である 8 月 5 日～6 日というのは夏休みのため、観光客の年齢層が若いことが予想されます。お土産等の消費傾向が強いと考えられる高年齢層の方が来られる 11 月を調査期間に含めるべきかと思えますし、そういうのを含めるとやはり年間何回かの調査することが望ましいと考えます。

○サーベイリサーチセンター

調査の実施時期について、理想とは異なる時期を設定している理由について説明いたしますと、計画の策定が今年度中、つまり 3 月までとなっております。さらには、1 月のパブリックコメントや 12 月議会への報告等を踏まえますと、12 月上旬には一旦は計画の素案を策定しておく必要がございます。それを加味しますと、11 月の観光シーズンを待っての調査実施では計画への反映に間に合わないというスケジュール上の問題がございます。その結果、調査期間を 8 月にて設定しております。ただ、お盆期間に入りますと帰省客が急増することが予想されますので、お盆の 1 週間前である 8 月 5 日～6 日を調査期間として設定いたしました。

○委員

先ほどはあえて極端にプロモーションの必要性に触れましたが、他の委員が仰る通り、時期や状況・内容によって必要なものや何をプロモーションすべきという点が変わります。KPI に関する事項も含め本当に必要なことは何かを選んでいく必要があると思っており、それに資するアンケートを実施できれば良いなと考えています。その中で、KPI の測定と、

観光実態の違いの把握が一緒にできるのかなという点については、不安があります。KPI は別の調査結果等でも活用できる方法があるかと思いますし、参道での聞き取り調査では観光の細かい傾向等の違いを拾いにくいのではないかと思いますので、調査のやり方をもう少し考えられた方がいいのではと思っています。时期的な制約等もあるとは思いますが、今のままだと調査しても一般的な調査結果となって、あまり生かせないことになってしまうのではないかと懸念からの発言でした。

○委員

調査だけでなく計画策定までが受託業務のため、そこまで見据えると遅い時期に調査ができないということではよろしいでしょうか。

○サーベイリサーチセンター

その通りでございます。なので、年間的なシーズンごとの調査の実施が理想だろうと思いますが、計画策定を見据え、今回の調査は8月の実施にて設定しました。

○事務局

今回の計画策定に基づく調査については、資料の2ページ目に記載の令和4年度に実施済みのドコモユーザーに対する調査と、今回実施する資料3ページ目の聞き取りアンケート調査、そしてこの後説明があります外国人調査を、計画策定の基礎資料にしたいと考えております。聞き取りアンケート調査については先ほどお話にありました通り、具体的にどのようなコンテンツにニーズがあるかを個別に聞き出すことのできる設問を入れる等の対応についてはおっしゃる通りかと思います。ここについては、協議しながら進めていきたいと思っております。

○竹川会長

よろしいでしょうか。この聞き取りアンケート調査については、ご意見を踏まえて可能な限りニーズを引き出すことのできる調査へと内容を修正していきたいと思っております。また、お土産も重要な視点だと思っておりますので、このアンケートでは難しくてもお土産も分析対象とする方向性にしていければと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

続きまして、外国人観光客の調査について株式会社 Quick Connect より説明をお願いします。

○Quick Connect

(資料説明)

○竹川会長

ただいまの説明につきましてご意見等ありましたらご発言をお願いします。

○委員

調査項目について、どのような質問内容か教えていただきたいです。

○Quick Connect

太宰府市内での調査については、同行者数、観光目的、訪問済・訪問予定の観光スポット、訪問回数、消費額、満足度などを予定しています。

認知度調査（太宰府市外での調査）については、太宰府市の認知度の他、リピート率、太宰府への訪問予定の有無などを予定しています。

留学生調査については、太宰府市内の観光スポットの認知度、太宰府市を観光地として家族や友人に推奨するかなどを予定しています。

○委員

調査項目については、国内旅行者に対する調査も実施されるので、基本的には同じような項目を設問として設定した方がいいかなと思います。

認知度調査については、博多駅、天神駅、福岡空港の3ヶ所で実施されとのことですが、回収目標の300サンプルを3ヶ所で割って100サンプル、さらに国籍別の割付を考慮すると、たとえば中国では1拠点6人程度となりますが、この300サンプルが正しいのか、という疑問があります。一方で、サンプル数が多いほどコストもかかるので、どうするのが適切かなと思っています。

○Quick Connect

サンプル数と国籍別の割付については、コストの問題もある中で過去の太宰府市の観光案内所における言語別観光マップの配布数のデータをもとに設定しています。博多駅、天神駅、福岡空港の調査拠点については、それぞれの調査拠点での傾向を掴むことが目的ではなく、あくまでも太宰府市を知っているかに主軸をおいた調査ですので、調査拠点ごとの回収数を重視はしていません。

○竹川会長

国籍別の回収目標数については、以前は中国人観光客が多かったものの、近年は韓国人観光客が多いことを踏まえた上での設定数でしょうか。

○Quick Connect

その通りです。

○竹川会長

皆さん、よろしいですか。日本人と外国人の対比という観点もありますが、太宰府以外での調査も行うことで、今まで見えてこなかった課題を見えるようにすることができるかと思っています。これらの点を踏まえて次の協議会に向けて進めていければと思います。

全体を通して何かある方はいませんか。

○楠田市長

貴重なご意見ありがとうございます。単年度での調査・計画策定を前提としているため、スケジュールに関する制約があることに加え、予算的な制約もある中での調査となっております。ただ、市の職員が聞いているニーズや委員の皆様が現場で感じてらっしゃるものもあるかと思うので、定量的な調査結果のみではなく、そのような定性的なものを皆様から出していただくことで意義のあるニーズの把握を目指していきたいと考えております。よろしくお願いします。

○大江副会長

活発なご意見をありがとうございます。委員の皆様が事前に資料を確認された上でこの協議会に参加されたので、これほど活発な意見が多く出たかと思います。大変な中で準備された事務局にも改めてお礼申し上げます。次回以降も資料を早めに配布することで意義のある協議会としたいと思います。

令和3年に太宰府の史跡指定100年を記念するシンポジウムが開催されました。この計画策定のタイミングでこれからの100年をどうしていくかということについても考えていきたいと思います。具体的には南大門～朱雀大路～政庁跡の復元等による回遊性の向上などが考えられるかと思います。実際に友好都市の多賀城市が南門の復元を進めている等の事例があります。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○竹川会長

ありがとうございます。最後に事務局にお返しします。

○事務局

(閉会挨拶)